

令和3年度 事業報告書

障害児通所支援

第2ちゃ一む

生活支援に関する事業

実施事業名		実施月	実施状況		主な実施内容	結果
			参加人数	実施回数		
A	室内活動	通年	全員対象	毎日	一人ひとりの子どもの欲求を十分満たし、生命の保持と情緒の安定を図る。	自ら宿題を行い、個別課題等にも意欲的に取り組む様子が多く見られた。いろいろな遊びを提案したり行事やゲームを通して友達と関わりを持ち、集団でのルールを学ぶことができた。
	室外活動	通年	全員対象		近隣の公園や海洋博物館、公共の施設への外出を通して、基礎体力と心身の健康増進を図る。	新型コロナウイルス感染症の影響により、室内公共施設への外出は控えたが、近隣散策や公園遊びでは公の場所でのルールを学んだり、運動遊びを取り入れ健康増進につながった。
中	製作活動	通年	全員対象	月1回	手・指先を使うことで日常生活活動能力の向上を目指す。また、製作活動を通して達成感を味わい自信に繋げていく。	作品を完成させることで達成感を持ち、季節を感じたり家族にも喜んでいただくことができた。
活	体操教室 運動遊び・体幹トレーニング	通年	全員対象	体操教室 (年4回程度) 運動遊び・体幹トレーニング 週1回	楽しく体を動かすことで、走る・転がる・飛び跳ねる・渡るといった基本的な動作を養い、体の動きをコントロールすることで、苦手の動作や不器用さの改善を図る。	いろいろな動きをすることで苦手だった動作ができるようになり、体力の向上にも繋がった。外部講師を招いての体操教室は行えなかった。
動	リトミック	通年	全員対象	週1回	楽しく音楽と触れ合いながら、基本的な音楽能力を伸ばすとともに、身体的、感覚的、知的にも、子どもたちが個々に持っている潜在的な基礎能力の発達を促していく。	音楽への興味が広がり、音の高低や速さ、拍子を聴き分け、楽しみながら注意力や基本的な音楽能力を伸ばすことができた。ハンドベルの活動も取り入れ、協力して曲を演奏する楽しさと達成感を得ることができた。
	スヌーズレン	通年	全員対象	通年	聴覚・視覚・触覚・味覚・嗅覚の五感を使って、トータルリラクゼーションの心地よい空間を提供する。	各自が自分の心地よい過ごし方で過ごしていた。気持ちの安定を図るスペースとして活用することもあった。
	キッズヨガ	通年	全員対象	月2回	心と身体両方に作用するヨガを通して健康な身体を作ると同時に、精神の落ち着きを得ることで自己肯定感などを高め、豊かな人間性を育成することを目的に行う。	静かな環境で活動することで気持ちが落ち着き、いろいろなポーズを通して体幹や柔軟性を養うことができた。
	フラ体操	通年	全員対象	月1回	フラダンスをベースとした体操で脳の活性化、健康促進を目的に行う	親しみのある曲では、歌を口ずさみながら踊りを楽しむ様子が見られた。

	親子参観		児童発達 学年	低	利用者と一緒に、保護者にも所での活動を体験していただくことにより、親子関係を深めるとともに、職員との信頼関係を築いていく。	新型コロナウイルス感染症を考慮し、参観は行わなかったが、その都度丁寧に様子をお伝えし、家庭での様子をお聞きしながら連携を図った。
	美化活動	通年	全員対象	月1回	花壇の整備、草むしり、窓ふき等、環境美化活動を行う	意欲的に取り組む利用者も多く、活動を通して物を大切にすることや清潔に対する意識向上につながった。
B 各種療法	療法的な音楽の時間	通年	全員対象	月1回	いわき音楽療法研究会MusicForestのご協力のもと、音楽を聴いたり、歌ったり、楽器を鳴らしたりする中で心や体を刺激し、生活向上と機能回復を目的とする。	新型コロナウイルス感染症拡大の影響で中止になった月が多かった。いろいろな楽器に興味を持ち、協力したり音楽に合わせて身体を動かしたりリズム感を養い楽しむことができた。
	陶芸療法	6月	全員対象	年1回	粘土を捏ねたり、握ったりする作業から、手指の発達を促す。子供たちの創造性を育み、作ることの楽しさや喜びを体験する。	鍋敷きを製作した。捏ねる感覚を楽しむとともに、好きな模様を付けて「自分の作品」という達成感を持つことができた。
	遊戯療法	通年	全員対象	通年	遊びを通して、自らの問題状況や、言語化できない感情を表現することを目指す。	職員と1対1での活動や決められたルールに従って集団でのゲーム遊びを通して、感情の表現やコントロールを学ぶことができた。
C 療育	SST (社会生活技能訓練)	通年	全員対象	通年	人との関わり・行動をより適切で効果的に行うことができるよう社会的スキル訓練を行う。また、学習理論(行動理論)に基づく技法を用いて体系的、意図的に対象者の技法形成を図る構造化された方法で本人の強さを引き出す。	個々に合わせたスキルアップワーク等の教材を使用した学習や、絵カードを使用したり様々な活動の場面で練習することで、スキルの向上を図った。
	太田ステージ	通年	全員対象	通年	太田ステージ評価用具を使用した評価を行うことで、客観的に個々の発達段階を把握し、各発達段階に応じた療育につなげていく。	共通のツールで評価することで、客観的に発達段階を捉えることができた。
	TEACCH	通年	全員対象	随時	周囲の状況を自分の力で理解し、自分に必要な情報を選び出し、適切な行動ができるよう障害や能力に合わせて構造化した環境を整え視覚的支援をする。	室内の環境整備とともに、全体のスケジュールと必要に応じて個別のスケジュールを提示することで見通しを持って活動でき、写真や絵カード等の視覚支援も交えて様々な場面で自分で「選択」できるよう支援を行った。

関係機関との連携強化

D 関係機関 連携強化	児童発達支援	通年	児童発達児	通年	身近な地域の障害児支援の専門事業として、通所利用の障害児の受け入れだけではなく、地域の障害児・その家族を対象とした支援や保育所等の障害児を預かる施設に対する援助を行う。	お互いに幼稚園、事業所見学を実施して共通理解を図り、発達段階に合わせた療育を提供することで、保護者からも成長が感じられるという声を頂いた。また、入学前に小学校にて支援会議を行い、情報を共有した。
	家族支援	通年	全員対象	通年	不安をかかえている保護者に対する心理的なケアや家庭における療育方法の支援、利用者の兄弟に対する支援の促進など、家族を含めたトータルな支援を図っていく。	連絡帳や迎え時に保護者とコミュニケーションを図り、定期的にアンケートを実施することでニーズに合わせた支援を行った。
	ケアマネジメント	随時	各関係者	随時	支援の切れ目が生じないように、各機関との連携を図る。	必要に応じて地区センターや学校、相談事業所と協力をし、支援会議を開催した。
	法人内連携	随時	法人内関係者	随時	相談支援事業を通し、本人や家族が必要としている制度の説明やサービス等を安心して利用できるよう円滑化を図る。	個々に合わせた必要なサービスが提供できるよう、相談事業所と連携を行った。

地域力を高める

外食	1月 8月(テイクアウト)	一部利用者 (20名)	年2回	自己選択・自己決定を尊重し、地域での自立や社会参加を促進する。	事前にメニューを伝えたこともあり、スムーズに選択でき、支払いも自分で行った。(天真庵貸し切り)
買い物	7月 8月(訪問) 3月(訪問)	一部利用者 (30名)	年3回	自己選択・自己決定を尊重し、地域での自立や社会参加を促進する。	買い物を楽しみに待つ様子が感じられた。財布やエコバックを準備したりと、選択から支払いまでの一連の流れを学ぶことができた。
ボランティアの活用		全員対象		ボランティアの受け入れを積極的に行うことにより、障害児通所支援の認知を広める。	希望者がいなかったため、受け入れはなかった。
公共の交通機関の利用		全員対象		就労を見据えて、公共の交通機関利用(バス・電車)の訓練を行う。	公共交通機関の利用は行わなかった。室内で絵カード等を利用しマナーについて話す機会を設けた。

社会貢献

実習生の受け入れ	通年	全員対象	通年	実習生を積極的に受け入れ、障害児に対する支援や交流等を通し福祉人材の育成に貢献する。	希望者がいなかったため、受け入れはなかった。
高齢者との交流		全員対象		子供たちと高齢者とのつながりが希薄になっている状況において、子どもたちの豊かな人間性を育むとともに、子供たちが高齢者と触れ合い、高齢者から学んでいくことを目的とする。	高齢者施設訪問は行わなかった。各自で祖父母と交流するきっかけになるよう、敬老の日に向けてプレゼントを製作した。
地域の清掃活動	通年	全員対象	通年	近隣の公園や公共施設のゴミ拾い等を行い、地域の環境保全に協力する。	室外活動の際、公園でのゴミ拾いを実施し、公共のマナーについて学習する機会となった。

会議および監査に関する事業

実施事業名	実施月	主な実施内容
A. 会議	令和2年4月 ） 令和3年3月	a. 職員会議(毎月) b. 個別支援方針決定会議(随時) c. 権利擁護委員会(随時) d. 権利擁護委員第3者との懇談会(中止) e. 次年度事業計画策定会議(10~12月) f. 行事計画会議(随時) g. サービス担当者会議(随時)
B. 監査	令和3年7月	・法人内部監査

研修に関する事業

実施事業名	実施月	主な実施内容
法人外	令和3年5月	・次世代人材育成研修(前期)
	令和3年9月	・次世代人材育成研修(後期)
	令和3年11月	・令和3年度発達障がい専門療育向上事業事例検討会
	令和3年12月	・強度行動障害支援者養成研修(基礎・実践)
	令和4年1月	・障がい者虐待防止対応研修会
		・ソーシャルワーク研修会
	令和4年2月	・令和3年度相談支援専門員・サービス管理責任者等フォローアップ研修
令和4年3月	・令和3年度児童発達支援管理責任者スキルアップ研修	

その他の事業

見学者	月	見学者名(団体名)	内容
	6月	高坂幼稚園	施設見学

令和3年度 活動内容実績

第2ちゃーむ

月	児童発達支援			放課後等デイサービス			総計	延人数		
	(幼)男子	(幼)女子	合計	(児)男子	(児)女子	合計		男子	女子	合計
4月 (26)	1	1	2	17	13	30	32	172	125	297
5月 (26)	1	1	2	17	13	30	32	170	118	288
6月 (26)	1	1	2	18	13	31	33	183	127	310
7月 (27)	1	1	2	18	13	31	33	184	120	304
8月 (26)	1	1	2	18	13	31	33	161	101	262
9月 (26)	2	1	3	18	13	31	34	159	117	276
10月 (26)	2	1	3	18	13	31	34	171	122	293
11月 (26)	2	1	3	19	12	31	34	195	104	299
12月 (25)	2	1	3	19	12	31	34	198	116	314
1月 (24)	2	1	3	19	12	31	34	184	94	278
2月 (24)	2	1	3	19	12	31	34	169	88	257
3月 (27)	2	1	3	19	11	29	32	183	103	286
合計	19	12	31	219	150	368	399	2129	1335	3464

利用者数（3月現在）

幼児	小学1年	小学2年	小学3年	小学4年	小学5年	小学6年	計
3	2	5	1	1	2	3	17

中学1	中学2	中学3	高等1	高等2	高等3	計
1	4	6	1	2	1	15

学校名

幼稚園	保育所	いわき支援	富岡支援	好間一小	湯本一小	内郷一中	合計
1	2	24	1	2	1	1	32

障害種類

自閉症	ダウン症	知的障害	肢体不自由	その他	合計
20	5	2	0	5	32

手帳等級

療育A	療育B	手帳なし	合計
16	14	2	32

生活支援に関する事業

実施事業名	実施月	実施状況		主な実施内容	結果	
		参加人数	実施回数			
A 日 中 活 動	室内活動	通年	全員対象	毎日	一人ひとりの利用者の欲求を十分に満たし、生命の維持と情緒の安定を図る。	令和2年度は日中一時支援事業を利用する児童がいなかった。
	室外活動	通年	全員対象		近隣の公園・公共の施設の外出を通して基礎体力と心身の健康の増進を図る。	令和2年度は日中一時支援事業を利用する児童がいなかった。
	製作活動	通年	全員対象	月1回	手・指を使うことで日常生活活動能力の向上を目指す。また、製作活動を通して達成感を味わい自信に繋げる。	令和2年度は日中一時支援事業を利用する児童がいなかった。

会議および監査に関する事業

実施事業名	実施月	主な実施内容
A. 会議	令和3年4月 ） 令和4年3月	a. 職員会議(毎月) b. 個別支援方針決定会議(随時) c. 権利擁護委員会(随時) d. 権利擁護委員第3者との懇談会(中止) e. 次年度事業計画策定会議(10~12月) f. 行事計画会議(随時) g. サービス担当者会議(随時)
B. 監査	令和3年7月	・法人内部監査

その他の事業

見学者	月	見学者名(団体名)	内容
	6月	高坂幼稚園	施設見学

利用者数

幼児	小学1年	小学2年	小学3年	小学4年	小学5年	小学6年	計
0	0	0	0	0	0	0	0

中学	中学2	中学3	高等1	高等2	高等3	計
0	0	0	0	0	0	0

学校名

未就学	保育所	いわき支援	富岡支援	好間一小	内郷一中	合計
0	0	0	0	0	0	0

障害種類

自閉症	ダウン症	知的障害	肢体不自由	その他	合計
0	0	0	0	0	0

手帳等級

療育A	療育B	合計
0	0	0